

平成30年度府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議会議録

- 1 日 時 平成30年9月26日(水)
午前10時00分～午前11時35分
- 2 場 所 安芸府中生涯学習センター
くすのきプラザ 2階 研修室
- 3 出席委員 (6人)
座長 上之園 公 子 [学]
委員 岡 嶋 学 [金]
委員 寺 戸 裕 司 [労]
委員 新 宅 祐 也 [住]
委員 松 本 真奈美 [住]
委員 森 岡 小津恵 [住]
- 4 欠席委員 (3人)
委員 基 丸 勝 子 [産]
委員 山 田 和 孝 [官]
委員 益 村 泉月珠 [言]
- 5 議事次第 1) 開会
2) あいさつ
3) 委員紹介
4) 総合戦略の平成29年度末時点の検証について
5) 閉会
- 6 町出席者 町長 佐藤 信 治
副町長 岡野 浩 子
教育長 高杉 良知
(事務局) 企画財政部長 戸 田 秀 生
企画財政部次長 増 田 康 洋
企画課主幹 大 神 規 正
企画課計画係長 貞 廣 直 哉
- 7 傍聴者数 14人

8 議事の内容

(午前10時00分開会)

1) 開会

○座長（上之園委員）

皆さんおはようございます。

本日は、お忙しいところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

昨年引き続き会議の座長を務めております、比治山大学、現代文化学部、子ども発達教育学科教授の上之園でございます。

よろしくお願いいたします。

定刻となりましたので、平成30年度府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議を開会いたします。

本日はご欠席の方もおられますが、6名の委員にご出席をいただいております。

それでは、お手元にお配りしております、次第に沿って会議を進めてまいります。

なお、会議の終了は11時30分頃を予定しています。

2) あいさつ

○座長（上之園委員）

開会に当たり、佐藤町長よりご挨拶をいただきます。

○町長

皆さんおはようございます。

平成30年度府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議の開催に当たりまして、主催者を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

はじめに、平成30年7月豪雨災害、今月に入りまして台風21号、北海道地震で亡くなられた方々にはご冥福をお祈りしますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

府中町におきましても、かつてない災害被害が発生しております。ただ、現在において応急復旧等、土砂の搬出もおおむね終えていまして、現在では被災された方々の生活再建の支援、本格的な復旧復興に全力で取り組んでいます。

これに併せまして、かつてない災害でありましたので、防災活動がどうであったのかの検証を同時に行っております。

こうした中で、7月に会議を開催する予定でしたが延期となりまして、委員の皆さまにおかれましては、大変お忙しい中、本日の会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。改めましてお礼申し上げます。

さて、国ではこの6月に、まち・ひと・しごと創生基本方針2018が閣

議決定され、依然として我が国における将来の人口減少・高齢化が深刻な状況であることや、人口移動の面での東京一極集中は継続していき、国を挙げて取り組むべき喫緊の課題であることなどの現状認識のもと、各分野の施策を推進するとされたところです。

府中町の地方版総合戦略は人口5万人維持のため、出生率回復と子育て世代の転入増の2つの基本目標や、それに関係した重要業績評価指標を設定し、関係施策を推進することで目標を達成しようとするものであり、現在取り組んでいるところでございます。

この後、担当から平成29年度末の検証結果などをご報告させていただきます。

府中町では、今後とも「子育て世代が居住を選択するまち」を目指して参りたいと考えておりますので、委員の皆さまには是非とも忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。

3) 委員紹介

○座長（上之園委員）

ありがとうございました。

それでは、委員の紹介をさせていただきます。

人事異動に伴う委員の交代もございましたので、事務局から委員の紹介をお願いします。

○企画財政部長

企画財政部長をしております戸田です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、お手元にお配りしております委員名簿をご覧ください。

名簿順にご紹介をさせていただきますので、一言ずつ自己紹介をお願いいたします。

なお、3名の方がご欠席されておりますので、3名の方については、後ほどご紹介させていただきます。

それでは、座長の上之園委員からお願いいたします。

○座長（上之園委員）

比治山大学で教員養成を担当しております上之園です。よろしくお願いいたします。

○岡嶋委員

広島銀行安芸府中支店の支店長をしております岡嶋です。よろしくお願いいたします。

○寺戸委員

労働組合を代表しまして、マツダ労働組合から参りました寺戸です。よろしくお願いいたします。

○新宅委員

府中北交流センターにあります児童センターハッピーズのセンター長をして
おります新宅です。よろしくお願いいたします。

○松本委員

中部民生委員、主任児童委員をしております松本です。よろしくお願いいたします。

○森岡委員

未就園児とその親御さんを対象に月1回子育てサークルをしています、子
育てサークルわっぷるの代表をしております森岡です。よろしくお願いいたします。

○企画財政部長

本日欠席をされております墓丸委員ですが、府中町商工会に所属されてお
ります。

本日の朝に急遽仕事が入ったということで連絡がありました。

墓丸委員から、11月3日にくすのきプラザでかっぼ祭りがありますので
皆さん参加してくださいという伝言をいただきましたので、ご紹介させてい
たきます。

続いて、山田委員ですが、広島県の人事異動に伴い、前任の木村委員の後
任として委員をお願いしております。

本日の朝に急遽公務が入ったということで連絡がありました。

続いて、益村委員ですが、広島テレビ株式会社の方で、メディアの分野か
ら委員となっていております。

続きまして、町側の出席者を紹介させていただきます。

○町長

佐藤です。よろしくお願いいたします。

○副町長

岡野です。よろしくお願いいたします。

○教育長

高杉です。よろしくお願いいたします。

○企画財政部長

最後に、事務局の紹介をさせていただきます。

私、4月から企画財政部長を拝任しました戸田です。よろしくお願いいたします。

○企画財政部次長

増田です。よろしくお願いいたします。

○企画課主幹

大神です。よろしくお願いいたします。

○企画課計画係長

貞廣です。よろしくお願いいたします。

○企画財政部長

それでは、どうぞよろしく願いいたします。

○座長（上之園委員）

ありがとうございました。

皆さん、どうぞよろしく願いいたします。

4) 総合戦略の平成29年度末時点の検証について

○座長（上之園委員）

それでは、本日の主題の総合戦略の検証に入らせていただきます。

後ほど事務局からも説明があると思いますが、本日の会議は5年の計画期間の中間報告ということで、報告を聞いて、何か改善点などの自由な意見の交換があればよいかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、事務局から説明をお願いします。

○企画課主幹

それでは、まず初めに、府中町まち・ひと・しごと創生総合戦略の平成29年度末時点の検証結果について、ご報告させていただきます。

事前にお送りさせていただきました、資料1をご覧ください。

府中町の総合戦略では、人口5万人の維持を目指し、出生率回復と子育て世代の転入出差プラスという2つの基本目標を設定しています。

そして、その2つの基本目標を達成するための施策と12項目のKPI、重要業績評価指標を掲げています。

それでは、まず、基本目標の達成状況です。

資料1枚目の中ほど、基本目標のところをご覧ください。

まず、①の出生率回復については、子育て世代女性100人当たりの0歳児数は9.47人となり、9.026人の中間目標を達成しています。

この9.47人という数字は、過去20年間で最も高い数値を示した昨年度の9.10人と比べてプラス0.37人と、さらに改善しており、最終目標の9.23人をも上回る数値となっています。

これは、これまでに進めてきた子育て支援施策等の効果が出てきたものと考えられます。

引き続き今後の推移を見守っていきたいと思います。

一方、次の②の子育て世代の転入出差プラスについては、目標の59人増に対して、54人増にとどまり、未達成となりました。

資料2枚目、右上に別紙1とあるページをお開きください。

下側の表が、子育て世代の転入出差のこれまでの推移です。

徐々に目標の59人増に近づいてはいますけれども、3年連続で未達成となりました。

表の一番右側に参考として記載している総人口は、微増を続けていますが、

子育て世代の転入出差の状況がこのまま進みますと、中長期的には人口5万人の維持が難しくなると思われますので、子育て世代の転入増・転出抑制につながる施策の拡充や、新たな取り組みを検討していく必要があると考えております。

なお、子育て支援施策の拡充や、シティプロモーション等、具体的な取り組みにつきましては、後ほど、担当係長からご説明いたします。

次に、K P Iの達成状況です。

資料の1枚目にお戻りください。

下の表が、K P Iの達成状況です。

K P Iは、12指標のうち9つが達成、朱書きの3つが未達成となりました。

達成率では、昨年度と同じ75%となっています。

右から2列目、判定欄の達成・未達成の表示に※印が付いているものは、前回から結果が反転したものを示しています。

まず、達成に※印が付いている2つの指標は、前回の未達成から達成に転じた指標です。

1つ目が、表の上から7つ目の子ども医療費の助成対象の子どもの推定数です。

平成29年度から、助成対象を、通院は小学校卒業まで、入院は中学校卒業までに広げ、制度を拡充したことによるものです。

そして、もう1つが、表の下から2つ目の町営コミュニティバスの年間利用者数です。

車両更新の効果で利用者数が増加したものと思われます。

一方、未達成に※印が付いている2つの指標は、前回の達成から未達成に転じた指標です。

1つ目が、表の上から4つ目の放課後子供教室の当選割合です。

未達成となった要因は、ボランティアスタッフの確保・増員が課題となっており、受入定員の増加が難しい状況の中で、申込者数が過去最多となったため、当選割合が下がり、未達成に転じたものです。

こうした状況の中で、今年度は、比較的ボランティアスタッフが確保しやすい夏休みの期間に、通常のプログラムに当選できなかった児童も参加できる夏休みチャレンジ教室を実施し、少しでも多くの児童が参加できるよう改善をしております。

もう1つが、表の下から3つ目の町内主要箇所の通行者数です。

調査時間や天候等の条件は以前の調査と同様でしたが、前年度比16%減で未達成に転じたものです。

この指標は、毎年、達成・未達成の反転を繰り返しており、ゆらぎや誤差の範囲が相当あるのではないかと考えられます。

最後に、前回から2年連続で未達成となった指標が、表の上から6つ目の中学校卒業時の英検3級以上取得率です。

今年度から、受検費用の助成対象学年を1年生にも広げるとともに、県の推進事業を活用して指導方法の工夫改善を図るなど、取り組みを強化し、目標達成を目指します。

以上が、平成29年度末時点の検証結果の概要です。

○企画課計画係長

引き続きまして、私からは資料2以降、資料5までについて、それぞれ簡単にご説明をさせていただきたいと思います。

昨年の会議で、最も多くのご意見を頂きましたのは、実はシティプロモーションについてでした。

具体的には、マツダスタジアムに近いことをもっとPRしてはどうかでありますとか、数値化できるものは数値化してPRしてはどうか、子育て支援施設のPRや、子育て支援施策のサービスレベルを他の市町と比べて示してはどうか、SNSや口コミ、生の声といったものを活用してはどうかなどのご意見をいただきました。

いただきましたご意見は役場の中で共有しまして、その後のシティプロモーションに活かさせていただいておりますので、その事例について少しご紹介させていただきたいと思います。

資料2-1をご覧ください。

こちらはコンビニなどでも売られている雑誌、FLAG!という広島ローカル雑誌です。

これは1万部発行されたものです。

雑誌の企画がカーブ特集号でしたので、ご意見をいただいております、マツダスタジアムまで近距離で、自転車10分という数値化をしてPRし、また、子育て支援施設のPRなどを併せて掲載させていただきました。

次に、資料2-2をご覧ください。

こちらは県内の保育所や小児科等に配布されているフリーペーパーで、マンペールというママさん向けのフリーペーパーです。

10万部発行されております。

ご意見をいただきました数値化ということで、自宅から小学校の距離1km以内率が県内ナンバー1でありますとか、県内初、県内で府中町のみといったように、表現の仕方でご意見を取り入れさせていただきました事例でございます。

次に、資料2-3をご覧ください。

これは、今後のプロモーションにおいて、ターゲットとなる20代30代の方の注意を引くためのアイキャッチとして活用していこうとしているものです。

これも前回ご意見をいただきましたアピールポイントや数値化表示等の手法を取り入れて作成したものです。

マンション等の開発業者の方が宣伝広告を打たれる際に、役場への問合せとして、府中町で売りになることは何ですかという問い合わせがよくありますので、そのような際にも提供しまして、場合によっては広告とともに間接的に府中町の魅力として発信していただくようなことも想定しております。

なお、資料2の最後に、府中ライフという新聞形式のフリーペーパーで、リビング広島さんが7月に広島市と安芸郡に約3万7千部配布されたものを添付しています。

こちらは、実質的にはハウスメーカーが町内で開発された住宅分譲地の広告なのですが、表紙を1ページめくっていただいた裏面に府中町の子育て環境などの紹介があります。

こちらの情報を町から提供させていただき、間接的にプロモーションを実施した事例です。

また、資料はございませんけれども、シティプロモーション関連では、今年度から府中町PR大使としまして、サッカー元日本代表の金田喜稔さん、漫画家の久保帯人さん、ボクシング元世界チャンピオンの竹原慎二さん、漫画家の田中宏さんにご就任をいただきました。

今後、町の魅力発信にお力添えをいただくこととしております。

以上が、前回の会議で最も多くのご意見をいただきました、シティプロモーションについての状況のご報告でございます。

続きまして、子育て支援施策の拡充状況についてのご報告でございます。

昨年度は、新たな子育て支援施策として、プラチナ保育の開始、児童センターハッピーズの開設等を行ったところですが、今年度も新しい子育て支援施策に取り組んでおりますので、その概要についてご報告いたします。

資料3-1をご覧ください。

こちらはネウボラふちゅうという新規事業で、核家族化や地域のつながりの希薄化により、子育てに不安や負担を感じる親世代が増えている中で、相談支援の拡充や産前・産後ケア等を行い、安心して妊娠・出産・子育てができる切れ目のないサポートをしていこうというものでございます。

次に、1枚めくっていただきまして、資料3-2ひろしま版ネウボラ構築モデル事業の内容という紙面を付けさせていただいております。

ネウボラふちゅうもこのモデル事業に参画して実施するもので、今年度は、こちらに掲載されております6市町が県内23市町の中でも先行して実施するというものです。

続きまして、1枚めくっていただきまして、資料3-3をご覧ください。

広報ふちゅうのページ抜粋ですが、下の方に掲載しております5月14日から開始ということで、保育所等から病児保育室への送迎サービスについて

です。

このサービスは、保育所利用中に児童が体調不良となった際、保護者が仕事都合等で急に迎えに行くことができない場合に、病児保育室の看護師等が保護者に代わって送迎するサービスでございます。

育児と就労の両立支援を目的としたもので、県内で初の取り組みとなります。

その他、今年度は、新生児の聴覚検査費用助成や不妊治療費助成の拡充も実施しております。

前回の会議では、子育て支援施策のサービスレベルの高さをPRすれば訴求力が高いとのご意見をいただいております。

府中町では、これまでも先導的な施策として、プラチナ保育を行ってきておりますが、今回ご報告しましたネウボラや病児送迎サービスといった新しい先導的な施策を含め、総合的に広島都市圏で一番の子育て支援となるように取り組みまして、また、それを今後のPRにも活かしていきたいと考えております。

以上、子育て支援施策の拡充状況についてのご報告でした。

続きまして、転入・転出数の推移についてご説明いたします。

資料4をご覧ください。

表紙に今回の傾向、概要を記載しておりますので、読み上げながらご説明させていただきます。

まず、①の転入・転出の地域別割合ですが、転入・転出ともに、おおむね広島都市圏が6割、東京等大都市圏が2割、その他地域が2割という状況に変化なしとなりまして、転入・転出先の割合については、大勢に変化はありませんでした。

②の転入・転出の年代別割合は、転入は総数が減少傾向であるが、20～39歳が移動者の最大の割合、約6割を占める状況に変化なし。

転出は総数に変化はないが、20～39歳の割合が若干減少、約5割となりました。

なお、転入総数は前年比減が続いており、今回は前年比マイナス5%となっております。

一方、転出総数は前年とほぼ変わらずで、差し引き202人の転出超過、社会減となっております。

③の転出入差の傾向は、地域別では、東京等大都市圏への転出超過が増加傾向となっております、マイナス122人となっております。

広島都市圏への転出超過は急増で、マイナス115人となっております。

年代別では、20代のみが転入超過、プラス66人となっております。

その他の世代はすべて転出超過で、特に40代以上の転出超過が急増となっております。

この点につきましては、3ページに10歳刻みでグラフ化しておりますのでご覧ください。

一番下の図、全地域の合計を見ていただきますと、総合戦略上のターゲットである20代は転入超過で増加傾向、30代は転出超過が縮小傾向であることがお分かりいただけると思います。

また、平成29年の傾向としまして、総合戦略上のターゲットではありませんが、40代以上の転出超過が急増していることもお分かりいただけると思います。

前年比で約3.45倍、急に増えているということになっております。

その40代以上はどこへ行ったのかと言いますと、上の図を見ていただきますと、2つ上の図である広島都市圏への転出超過が目立っていることがお分かりいただけると思います。

働き盛りの40代を含む、上の世代の転出超過が急拡大したことについて、今後の動向を注視する必要があると考えております。

いったん表紙に戻りまして、④の転入・転出の理由については、東京等大都市圏は就職、転勤等、仕事上の都合によるもの、広島都市圏は婚姻関係、住宅事情等、家庭の都合によるものが多い状況に変化なし。

ただし、広島都市圏では婚姻関係によるものが増加傾向で、住宅事情によるものが減少傾向となっています。

4ページをご覧ください。

上の表が転入理由の推移、下の表が転出理由の推移です。

平成28年の下半期、調査票の選択項目が一部変更されておまして、そのあたりから、広島都市圏の婚姻関係と住宅事情の大小関係に入れ替りが生じるなど、変化が見られてきております。

平成29年は、転入・転出ともに婚姻関係によるものが最も多く、転入33.4%、転出26.2%となり、特に転出では初めて住宅事情を抜いて最多となりました。

これは住宅事情の割合が減少しつつあることも大きく影響しております。

住宅事情による広島都市圏への転出は減少傾向ではあるものの、まだまだ大きな割合を占めており、引き続き注意が必要と思っております。

なお、新しい選択項目として、通勤・通学の便という項目ができていますが、広島都市圏からの転入理由では、その他を除けば2番目に大きな理由となっており、便利さを売りとしている府中町にとりましては、今後注視すべき指標と考えています。

以上で資料4の説明を終わります。

最後に資料5をご覧ください。

グラフ資料を付けさせていただいております。

まず、グラフで一番下の赤線の系列が、国立社会保障・人口問題研究所、

略しまして社人研の平成25年推計人口です。

その1つ上の黒い点線の系列が、府中町人口ビジョンの推計人口で、社人研の平成25年推計人口をベースに出生率等を補正したものです。

その人口ビジョンの推計人口をベースとして、総合戦略では、基本目標の出生率回復目標と子育て世代の転入出差増をともに達成することで、グラフで一番上の目標人口となりまして、5万人が維持できるとしております。

この3月に公表されました社人研の平成30年推計人口が、グラフでは中段の青線の系列です。

平成25年推計の赤線と比べると随分と上振れし、府中町の人口ビジョン推計人口と比べましても、2025年以降、上振れしていることがお分かりいただけると思います。

社人研の公表によれば、前回より全国的に人口減少時期が10年遅れると言われていますが、府中町ではより緩やかとも見受けられます。

しかし、長期的には人口が減少することには変わりありませんので、引き続き現在の取り組みを継続する必要があるものと考えておりまして、これから、この社人研の平成30年推計に基づく府中町の推計人口の見直しに着手してまいりたいと考えております。

以上で、ご説明を終了させていただきます。

○座長（上之園委員）

ありがとうございます。

ただいま事務局の方から説明がありましたので、これから、ご出席くださいました委員の皆さまから、ご質問やご意見を分けないで、幅広くお聞きできたらと思います。

できるだけ全員の方のお考えをお聞きしたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

ご質問でもご意見でも結構です。何かありますでしょうか。

○森岡委員

資料1にありますKPI達成状況のところですが、私の子どもが幼稚園に行っていて、あと数年で小学生に行きますので、学校での教育のところが気になっています。

広島都市圏で一番の子育て支援の基本的方向の中で、質の高い教育の提供という施策で、指標が学校の県大会の出場件数になっていますが、質の高い教育と学校の県大会の出場件数が結びつかないような気がします。

授業で何をやっているのかではないかと思うのですが、この指標を選ばれた経緯を教えてください。

○座長（上之園委員）

では、これに対して事務局、説明をお願いします。

○企画課主幹

ご指摘いただきました施策とK P I がかみ合っていないのではないのかという意見が前回もありました。

経緯につきましては、K P I を作る時に、それまで継続的に行っていた部分はK P I に掲げずに、この部分は力をいれたというところ、そういう変化があった部分を抽出して、K P I を作ったという経緯があります。

全体を見たときに全容が分かるようなK P I でなければいけないという意見もこれまでもありましたので、次の計画策定の際にしっかり考えたいと思っています。

○教育長

教育の質を高めるという取り組みということですが、府中町では学校教育のことに言えれば、将来の自分の人生にチャレンジして挑んでいき、主体的に生きていくという子どもを育てていくということを大きな主眼として目指しています。

そのために、志の教育をひとつの柱としています。

そのための施策が2つあります。

1つ目は、志を持って生きてきた人たちと、進路を決める中学2年生の子どもたちと出会う場面を作る、これは他市町にはない府中町だけの取り組みだと思えます。

これまでも府中町に久保帯人さんとか、府中町にゆかりのある人を呼んでいます。

2つ目が、意欲を持ったものを形にしていけないといけないということで、授業改善を大きな柱にしています。

指導要綱の改正で再来年に小学校で、もう1年後に中学校で改正が進んでいきます。

それを早取りをして、学びの変革という事業をしています。

1つが、基本的な力を身に付けまして、その基礎基本をベースにしながら、課題を自ら発見し、その課題を解決していくために他者と共同しながら一緒に解決をしていく力を付けていく、そういう授業にしていく取り組みがあります。

もう1つは、グローバル教育です。

府中町は県内で一番世界に近い町だと私は思っています。

この町で教育を受ける限りは、世界を意識しながら世界のスケールで物事を考えたり、コミュニケーションを身に付けたりしながら府中町で生きていくといったイメージを持っております。

指標としては、先ほどの話の中でも述べましたが、チャレンジして挑んでいくというイメージとして、スポーツがありました。

府中町は、子どもの体力面に課題がありましたので、そのことを意識しながらK P I の中に入れました。

○座長（上之園委員）

それを聞かれてどうですか。

○森岡委員

ありがとうございます。経緯は分かりました。

質の高い教育ということで、文科省でアクティブラーニングを取り入れようという動きがあったかと思います。

アクティブラーニングをすればいいとは思っていないのですが、従来型の授業だと先生の言うことを聞くというのが重要視されているように感じています。

そこを打破するためにも、先ほどおっしゃっていた授業改善というのがものすごく有効なのではないかと考えています。

先日、アクティブラーニングをされている先生とつながる機会がありまして、いろいろお話を聞いたときに、一斉授業は一斉授業の良さがある、アクティブラーニングにもいろんな手法があって、それでとても良さがあるということ知りました。

実際、府中町でアクティブラーニングを具体的にどの学校でどのくらいやっているのか、外からは全く分からないので、そのあたりを聞いてみたいと思います。

○教育長

アクティブラーニングは、義務教育の段階では、主体的で対話的で深い学びといったような言い方をこれからはしていくというふうになっています。

広島県では、主体的で深い学びという言い方で、3年間取り組みをしてきました。

先ほども申しましたように、授業の研究をして町内に広げていきました。

私の感触で言いますと、共同しながら課題を解決していくということができ始めていると思っています。

まず、課題の提示をするときにパフォーマンス課題というのがあります。

身近な問題を課題として、その中から、こういうことがあったときは、どういう問題になるだろうかと、まず問題を見つけ出します。

その問題を、まず自力で解決していきます。自らやっていきます。

その後で、グループで1つの課題を解決していくための話し合いをします。

最後に、全体でそれぞれのグループの考え方を聞きます。

多様な、いろんな考え方が出てきます。

その中で、例えば、算数で言えば、これは効率がいいといったようなことを、全体で解決していきます。

その後、演習問題をやっていきます。

そういったような流れになります。

ただ公式に当てはめて早く答えを見つけていくというやり方ではなくて、

どうしてそういうふうになるのかというところを子どもたちが議論しながら解を見つけていくといったような授業内容で取り組んでいます。

○座長（上之園委員）

府中町の教育では、質の高い教育を目指しておられたり、府中町独特の教育だったり、先端を行く教育をされている内容が、話を聞いて、皆さん深くうなずかれていました。

そのあたりが、子育て世代の方やこれから子育てをする世代の方に、十分伝わってなかったということがあったのかもしれないので、数値もですけども、中身の発信みたいなのところも出てくるのかなと思いました。

それでは、子育て世代ということで、それに関わっておられる松本委員、新宅委員はいかがでしょうか。

○松本委員

私は、主任児童委員ということで、学校と関わることをさせていただいている状況で、少し前は保護者だったので、学校の取り組みとか教育に関わる熱心な姿とかも見ておりました、府中町の学校の先生方はすごいとか、子どものことを大切に思ってくださいなというのは感じております。

さっきのように、しっかりアピールとか、分かりやすいアピールというのが、これからのお母さんたちには必要なのかなと思いました。

地域の方の声を聞きながら、情報というのが皆さんに届いているのかなと思ったときに、届いてないんだなと感じたことがあります。

それは、今、府中町はコミュニティ・スクールを始められて、私もすごく関心がありまして、いろんなところで協力させていただこうと思って、できる範囲で足を運びながら一緒に取り組ませてもらっているんですけど、地域の人に、知っているか聞いたところ、あまり知られておらず、もったいないなと感じました。

たくさん地域の方に来ていただきたい、助けていただきたい、見守っていただきたいというのが届いてないなと感じましたので、学校でその話をしました。

地域の方は、こういうことをお手伝いしてくださいという資料とかチラシとかは届くんですけど、何をどうしていいかという詳しく細かなことが載っていないので分からないという声があったので、何曜日の何時から何時にこういうことをしますといったようなことを、細かくお知らせが欲しいということがありました。

そういったところを、発信の方向性を絞っていかれるといいのかなと思いました。

あと、災害が起こったときについては、民生委員さんも、高齢者の方にも迅速に対応していかなければいけないんですけど、情報の連絡が大変だったというのを聞きました。

すぐに連携がとれるように、幅広く皆さんの耳に届くやり方があるといいのかなと、今回すごく思いました。

○新宅委員

2点ほど、現状を含めて、児童センターというところから見させてもらった意見なんですけれども、バンビーズでセンター長をさせていただいてまして、5～6年前に比べるとお父さんの参加率がすごく多くて、小さなお子さんのイベント等にも家族でご参加されたり、お父さんとお子さんで一緒に参加されるような姿を見ていまして、お母さんグループはよく見かけるんですけれども、最近お父さんグループも見かけるようになって、お子さんと一緒にパワフルに遊んでおられる姿をよく見かけます。

日によっては、お母さんより多い日があるくらい、今日はお父さんデーだねというような現状もありまして、また、他のお子さんとも一緒に遊んでくれて、見ていてほっこりする場面があります。

もう1点ですが、メディア関係の資料に児童センターのことを載せていただいて、町内外問わず多くの方から、リビングを見ましたとか、ママンペールを見ましたとお声をいただいたり、毎日1～2回くらいは、今日やっていますかというお電話をいただきます。

町外なんですけど利用できますかというお問い合わせも毎日ありますし、1日に1～2組は、初めて来たんですけどというお話をいただきまして、館内を案内させていただくことが、オープン2年目ですが、今でもそういうお声をいただいているので、利用者数もとても多い現状であります。

もう1点追加なんですけど、保護者の方が、第一子さんが初めて小学校に上がる際に、小学校ではどんなことをやっているんですかという問い合わせが結構あります。

そういったお話を受けまして、小学校のお便りをこちらにもいただきまして、乳幼児の部屋に掲示をしています。

こういった活動をしてますというのが分かりやすく書いてありますので、紙媒体ですけれども見ていただいて、こんなことをやってるんですねとか、運動会でこういったことをやっているんですねというお話を一緒にさせていただきながら、そういった細かいところの手が届きそうで届かないところをどうにかできればいいなと思って日々やっています。

○座長（上之園委員）

第一子の不安というのも話にありましたし、すでに学校にしっかり関わっておられるコミュニティ・スクールの話がありました。

コミュニティ・スクールというのは、どのようなものなのでしょうか。

○教育長

地域みんなで子どもを育てていこうというのが基本です。

子どもの教育は、学校が大きな柱であり、核であるということは間違いな

いわけであります、地域の願いも学校の中に入れていこうと、教員は転勤があつて変わりますが、地域はあまり変わりませんので、この地域の子はこういう子に育ててほしいという思いをしっかりと学校も受け入れながら、地域と学校をパートナーとして一緒に育てていこうという取り組みであります。

今年の7月から、府中町内の全校にコミュニティ・スクールを設置して、学校運営協議会、地域の方も一緒に入ったメンバーで運用していくといった取り組みであります。

南小学校が一番最初にやってまいりまして、大きな成果をあげております。

これまで、どちらかというと、地域の方が学校に来ると、学校の先生が地域のお世話までしなければいけないという思いがあつたんですが、まず学校の先生方が評価をしています。

学校に来てもらって本当にありがたい、助かる、一緒に育てていけるといふことと、その次に子どもが評価をしてくれました。

そういう大きな成果があつたので、全校に広げていったという状況です。

○座長（上之園委員）

お手伝いに行くだけではなくて、一緒に参加するということでしょうか。

○教育長

手伝いに行こうと思つていただけるのもとてもありがたいんですが、できたら一緒に子どもを育てていくパートナーとしてやっていこうよといった気持ちになつていただけるとありがたいなと思います。

もっと主体的に学校と関わっていただきたいという思いがあります。

○座長（上之園委員）

そのような取り組みを町内全校でされているというところの発信もキーワードになりそうだなと思います。

今、バンビーズでお父さんがたくさん参加されて、それも主体的に参加されているという話を伺つたんですが、このあたりで、働き方改革とかいろいろあると思いますけれども、寺戸委員から働く側から考えて何かありますでしょうか。

○寺戸委員

やりがいとか働きがいとかが必要になつてくるのでは、そういった意味では、地域に帰ってきたときに家庭の心配なしに働きやすいとかの環境が整っている地域であれば働く側としてはうれしいと思います。

これまで聞いていく中で、府中町の取り組みは素晴らしいと思います。

その中で発信力ということですが、取り組みをどう伝えていくかがポイントとなるだろうなと思います。

組合の取り組みで言えば、どんな取り組みをやっているのか分からないということをよく言われるので、取り組みをどう伝えるかが結果的には求心力を高めることにつながると思います。

こういったことが、家庭の中でのコミュニケーションづくりになるとか、職場の中でのコミュニケーションづくりになるとか、そういった形で活用していくといったところも大事かなと思いました。

また、もう一つは、読みたいなどと思ってもらうことが大切なので、我々は写真を多用したりしていますが、そこに組合員や地域の方たちにも登場していただいて、コミュニケーションのきっかけとしていくということも少し意識していきまして、より知ってもらうということにつなげていけたらいいのではないかなと感じました。

○座長（上之園委員）

岡嶋委員をお願いします。

○岡嶋委員

府中町をPRするという取り組みというのは、非常に行われていて、発信力もあると感じています。

その中で、住みやすいまちづくり、子育て支援ということで、転入・転出理由の推移について見ると、府中町に転入された理由の子育て環境のパーセンテージをもっともっと上げていかないといけないのではないのかなと思いました。

あと、住宅事情の転入・転出のところで、広島都市圏の転出の方が13%程度多いというところがあります。

私が思うには、府中町は、広島駅から近いし便利もいいというところがあって、地価が高くなっているからこういう事象が起こるのかなと思ったりします。

そこを、今後どのようにしていくかということと、住宅事情で言えば、今後マンションとかも建つ計画があると聞いていますので、人口的には増えていくんだろーと思いますけど、住民の方が住宅事情ということで転出して行かれる方が多いという事情や理由、そういったところを、住みやすいというところをポイントにして検証していただければと思います。

それと、基本目標で、出生率の回復が最終目標を上回っていると状況ということで、目標の上方修正をされないのかと、子育て世代の転入出差プラス59人増というのが今まで未達成できているので、このあたりを上げいかれるのかどうなのか、どういうふうな考えをお持ちなのかお聞きしたいと思います。

○座長（上之園委員）

目標設定について、事務局の方はいかがですか。

○企画課主幹

基本目標の設定ですが、出生率につきましては、今の総合戦略を作る際、どうしても国等が発表する統計資料の数値が少し前のものになってきますから、総合戦略を作る時点で、府中町の現状に合わせて出生率を少し上げ補正

をかけて人口推計したのが、資料5の下から2番目の点線のグラフになります。

当初、若干補正をかけているという経緯はあります。

そこに対して目標設定して、その目標をさらに上回っているというかなりいい状況ということです。

これにつきましては、総合戦略が、平成27年から5年間の計画ということで目標設定していますので、転入転出も含めてですが、ここで目標を増減させずに、基準を変えずに見ていこうと、その上で、それを踏まえて検証し、そういった課題を次の目標設定のときに活かしていきたいと考えています。

今の時点では、このままの指標をもって進めていきたいと思えます。

それから、転入・転出につきましては、おっしゃいますように、ここが課題ですけれども、特効薬となるようなものはありませんので、今日多くのご意見をいただきましたように、せっかく教育でもいい取り組みをやっているから、もっとPRして知ってもらいたいということも含めて、来てもらえるように、また、さらに府中町で子育てを続けたいと思っただけのよう、転出抑制につながっていくようにPRもしていきたいと思っております。

○座長（上之園委員）

1年経って5カ年が終わった段階では、この指標について、もちろん項目も含めて大きく見直していかれるということが必要かなと思えます。

子育て世代に、かなり府中町も発信をされて、だいぶ広島都市圏からも入ってくるというあたりで、先ほどのバンビーズのお話のように、実際に広報が活きているという実感をされた方もいらっしゃるようです。

このこととは反対に、これが大きな課題かどうかは分かりませんが、40代人口が、東京とかではなく、広島都市圏に出て行くという話が先ほどありました。

子育て世代とか結婚されて入って来られて、義務教育くらいが終わられた頃、今度は長くここに住んでいこうかという世代が出て行かれているというのが、先ほどの事務局の言葉にもありました。

住み続ける町となるかについて、去年はそこまで意識をしていなかったように思います。

40代人口が広島都市圏、つまり近隣に、通勤等の交通事情ではなく移動しているということは、府中町が代替できない町にまではなっていないのかもしれない。

土地、住宅事情で高いというのは、府中町がそれだけ便利がいいということでもあると思えます。

少し高くてもそこに住みたいとか、そこに家を買いたいとか、ちょっと無理しても住みたい町というのはどんな町なのか、専門的に教えていただきたいと思えます。

○岡嶋委員

ソレイユとかそういった商業施設であったりとか、ランドマークになるようなもの、マツダスタジアムが近いとか、そういった所になるんだろうと思いますけど、地価が高いけど住みたいという所になってくると、明確なことは何とも言えないですけど、昔だったら50～60坪の土地に庭があってという感じで一軒屋を建てていましたが、今は地価が高くて住みたいという人は20坪弱くらいの土地に3階建てを建てたり、マンションに住まれたりということをしているので、にぎわいのある町と言いますか、我々も安芸府中支店に勤務しているので、子どもさんが道を通るわけですね。

そうしたら活気があるように見えるので、町に活気がある所に、家を買ったんだらそういう所に住みたいなという年代が40代前後になってくると思いますので、その年代にいかにかアピールするかが一番のポイントなのかなと思います。

あと、府中町というのは、金融機関から思うところは、もともと府中町にお住まいの方が、府中町で土地を買って住みたいと言われる方が多いので、そういう方は、本当に高くても府中町の土地をとという形で求められる方が多いので、そういった所もあり、もともと人気がある所なので、それに付加価値を、子育てであったり、明るいまちづくりとかいうか、そういったことをしていけば、地価が上がっても下がっても人気のあるとかいうか、人が寄ってくるまちづくりができていくのかなと感じます。

○座長（上之園委員）

府中町は、いろいろな方から見たときに、大きな家に住んでいて、それからだんだん住み替えて、小さいけれども便利がいいとか、何かそういうものもあるのかもしれないね。

20代30代で家を借りて、交通も便利で、子どもも質の高い教育を受けて、それが終わったら、少し離れたところで家を購入するという考え方もあると思います。

このあたりで、子どもたちのふるさとにしたい府中町や、いつかは住みたいブランドとしての府中町というような、府中町に住み続けたいという視点はどうでしょうか。

子育てから少し離れたシニアの方まで含めて、先ほど寺戸委員もおっしゃったように、どう生きていくか、PRも含めて、少し出てくるのかなと思います。

現在、20代30代あたりの方で、この先転勤などがあるかもしれませんが、広島市内と少し違った府中町の良さということで、どうすれば住み続けたいという気持ちになるのかをお伺いしてみたいと思います。

○森岡委員

私はちょうど30代に当たるんですけども、転勤があるので何とも言え

ないところはあるんですけども、私は基本的には府中町がとても気に入っていて、住み続けたいというのがありまして、さらに正直な話ですね、子どもから手が離れると、もうどこに行ってもいいと思っていて、その時に府中町を選ぶかという、その時にならないと分からないというのが、正直なところではあります。

どういう所だったら住み続けたいかなんですけども、今は、広島市内に出やすいという利便性だったりとか、東広島とか呉にも行きやすいというのがあるので、そうそう動かないかなと思います。

今回グラフを見てても、40代以上の方がどんどん転出されているということで、私みたいな方が多いのかなと、子育てが終わったらどこに行ってもいいという方が多かったのかなと感じました。

今はマンションに住んでいて、町内会にも所属していないので、地域のつながりというところで、正直弱いと思っています。

マンションのお付き合いはあるので、そういう意味では、決して孤独ではないんですけども、子育てが終わってさあどうしようかという時に、特にマンション住まいで、もともといらっしゃる住民の方とつながりが少ない方とかだと、入っていきにくいというのがあるのかなと思います。

それで、40代以上になってくると、たぶんついのすみかというところで選ばれる方が多いと思うので、その時に、周りに溶け込みやすいかどうかというところが大きいのかなと思います。

夫の実家の田舎では、そこに新しく来た人に、どういうふうに地域を好きになってもらうか、どういうふうに負担がないように地域のことをやっていくかというのを、住んでる方たちは考えていらっしゃって、割と新旧の住民同士の付き合いがうまくいってるんだなというのも見えてくるので、そういう新旧の摩擦が起こりにくい環境だとうれいなというのがあります。

○座長（上之園委員）

外から入られて住まれていて、動こうかどうしようかという、そのあたりが聞けたと思います。

時間も迫ってまいりましたので、一言ずつ言っていたら、まとめていきたいと思っています。

○森岡委員

今朝の話にもつながってくるんですけども、私が勝手に、子育てが終わったから出て行こうと思って皆さん出て行かれるのかなと言ったんですけども、例えば40代以上だったら、広島都市圏の田舎の方に行かれたのか、都市部のタワーマンションを買われてそっちに住もうとされているのか、ここからは読み取れないなと思っています。

それで、20代の方の転入が突出しているのは、単純に転勤とか就職とかそういう関係が多いのかな、どうなのかなというのが見えなくて、事務局

の方で、どういう背景をここから読み取っていらっしゃるのかなというのを聞いてみたいと思いました。

○企画課計画係長

もう少しだけ細かく検討したものはあるんですけども、おっしゃられたとおり、20代の転入が増えてきているのは、就職等に関連した20代前半の転入が多かったのかなと思います。

40代以降の転出が広島都市圏を中心に増えていることについては、広島市で言いますと、ちょっと南区が増えていたりとか、南区といえば去年タワーマンションが建ちましたよね。

多少は影響を受けているのかなと思います。

一方で、反対の海田町がちょっと増えてたりとかいうところがあって、タワーマンションが建ったから全部そこに行ったということでもないようなので、1つだけの特定ということでもないようだったというところで、細かいところはお示していませんが、そういう傾向が少し見られました。

○松本委員

私は、府中っ子です。小さいときから府中で育ち、また、子どもも3人府中で育てております。

府中町の良さは身にしみて分かっているんですけども、最近すごく思うのが、府中町の小学校・中学校は、おいしい給食が食べられるということです。

市内の方では、中学校は給食がないというのを聞いて、これは自慢になるなと思っています。

あとは、わが子が小学校に上がったときに読み聞かせを立ち上げたんですが、今それが、各小学校にもグループができて、中学校でもコミュニティ・スクールという形ではあるんですけども、ほぼでき上がるということで、一緒に高まりながらやっています。

読み聞かせについても、子育てにはとても大事なことだなと思っていて、小学校・中学校通してずっとそれができる、そういった教育を受けることができる子どもたちって、きっと幸せだなと思います。

これも府中町の目玉になるといいなと、ボランティアさんたちと、そういう思いで、今やっています。

成人して子どもができたお母さんが、読み聞かせでお世話になりました、まだやってるんですかと言われて、まだやってるよと言ったら、じゃあうちのこの子もお願いしますというふうに言われたときに、なんて素敵な、幸せなんだろうなと思いました。

私は、住みたいなと思うことは、私自身が地域で育てていただいたからなんですよね。

いつも地域の人が声をかけてくださったり、助けてくださったりというの

があって、今の自分があるので、地域力というんですか、地域の関わりというのが府中町の良さでもあるのではないかと思うので、今後、そういうのも含めてアピールできたらいいなと思います。

○新宅委員

30代です。いろいろとお母さん方から客観的に話を聞いているところで、主観も若干入りますけれども、見ているところでは、子育て支援センター等も充実していて、児童センターが町内に2つもあるというのは、広島県でも他の市町にはないという現状がありまして、そういったところもPRになっているので、遠くでは西条や廿日市など、いろんなところからわざわざ遊びに来られているということは、魅力があると捉えてらっしゃるのではないかなと思っています。

府中町から転出される方が口々に言われるのが、本当に子育て支援が充実していて、あちこち行ったときに、同じような支援が受けられるかどうか不安だというのは、お母さん方からよく聞きます。

児童センターは、0歳から18歳までなんですけれども、18歳を超えても、例えば大学生等になってボランティア等で参加してくれて、そこから他県に就職していく子もいるんですけれども、こちらに帰ってきて顔を出してくれて、将来的にはこっちに転勤で落ち着きたいという声もよく聞きます。

そういったところで、ちょっとずつなんですけれども、輪というところで、すね、子どものときに地域に支えてもらったので、自分たちもここに住んで地域に恩返しをしたいという子どもたちも多くなります。

そういった輪が少しずつ広がっていけば、子どもたちも安心して子育てができるまちというところで、ちょっと無理してでも住もうかなと思ってもらえるように少しでもなればいいなと思っている次第です。

○寺戸委員

指標の中で、未達成の項目があるというところに関しては、その要因をしっかりと分析していかなければいけないと思いますし、そこに何の課題があるのかということも明確にしていけないのかなというふうには思いました。

そういった中で、他の市町と比較というところもやりながら、いいところはどんどん吸収していく必要もあるんだろうと思います。

出生率で目標を達成しているということは、それがなぜそうなっているのか、そういった強みのところはしっかり継続して取り組んでいき、一過性にならないように持続していくということも意識していただきながら進めていければと思っています。

また、1年半後ですか、次の新たな計画を作るときには、そもそも、なぜ人口5万人を維持するのかという、そののところがしっかりと論議した方がいいのかなと思ったりもしました。

○岡嶋委員

私は50代で、自分が仕事を辞めたらどうするのかを考えたときに、さっき森岡さんが言われたように、地域の方々との結びつきというか、絆というか、そういうのが強ければ動かないでしょうし、そうでなければ自分が行きたい所に行くといった感じで、そういったコミュニティ、つながりが薄ければ、どこかに移るかもしれないということを考えれば、11月3日のかつぼ祭とか、いろんな祭りがありますが、そういった地域のみんなが盛り上がる何らかのつながりをもっていける活動は、非常にいい活動だと思うので、町全体で盛り上がっていければいいのではないかと思います。

○座長（上之園委員）

皆さんありがとうございました。

お話の中で出た、キーワードとしてのつながりですが、子どもたちにとってはずっとホームタウンだったのだらうと思います。

でも、働く世代にとっては、その間はずっとベッドタウンのような形になっていたら、広島市のいくつかの区と同じ並びで考えていくことになるかもしれません。

その中で、やはり大人にとってもホームタウンで、人とのつながりがあつたら、府中町でなければということになるのかなというお話のように思います。

前ははどう発信するか、どう伝えるかということだったのですが、今回は、お話を伺いながら、どのように伝えるかという視点も必要だけでも、どのように伝わっているかという受け手側に立った視点も少し意識してみようということが出てきたのではないかと思います。

今日のお一人お一人の意見を町で参考にしていただいて、総合戦略の取り組みを進めていただきたいと思います。

委員の皆さまには、活発なご意見、本当にありがとうございました。

最後に今後のスケジュール等がありましたら、事務局からお願いします。

○企画課計画係長

現在の計画が平成31年度、来年度までを計画期間としていますので、次期計画は平成32年度から始まりとなります。

したがって、次期計画は、平成31年度中に策定をする必要がございます。

このため、来年度の有識者会議は、年度末検証だけではなく、次の人口ビジョンのことでありますとか、次の総合戦略の内容について、ご審議をいただくようになりますので、2回以上の開催になるというふうに想定しております。

○座長（上之園委員）

今年度は1回ということだそうですが、来年度は人口ビジョンと総合戦略

の改定ということで、2回ほどあるということと、先ほど上がりましたことは、とても重要なことだと思います。

なぜ人口5万人を目指すのかということも含めて、どういう指標でどういう数値目標でというあたりも、来年度は一緒にご意見をいただけるような会議になるのではないかと思います。

これから、人口推計の見直しとか、総合戦略の評価、検証をしていくだろうと思いますけれども、今までの、去年も含めて、委員の皆さんからいただいた意見も十分町の方で参考にさせていただきながら、進めていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

5) 閉会

○座長（上之園委員）

ご協力いただきありがとうございました。

それでは、ここで閉じさせていただきたいと思います。

本日は、大変ご多用の中、日程の変更等もあった中で、ご都合をつけてご協力をいただきましてありがとうございました。

以上をもちまして、本日の会議を閉会させていただきます。

皆さまありがとうございました。

(午前11時35分閉会)